

令和 8 年度 第 3 回用瀬地域振興未来会議 議事概要

【開催日時】

令和 8 年 8 月 2 7 日（木）午前 1 0 時 0 0 分～ 1 1 時 3 0 分

【開催場所】

用瀬町総合支所 3 階第 1 会議室

【参加者】

出席委員 西川功美、山下和彦、平井育子、寺崎健一、西尾とよ子、岸森孝弘、入江真知子、
西村 勝、石井 敏、田中聡
以上 1 0 名（敬称略）

事務局 太田用瀬町総合支所長、金谷副支所長、浜部産業建設課長、安田市民福祉課長
遠藤地域振興課課長補佐、堺地域おこし協力隊

傍聴者 2 名

【次第】

- 1 開会
- 2 会長・支所長あいさつ
- 3 議題・報告事項
 - （1）用瀬の流しびな総合調査について・・・資料 1
 - （2）地域の重点課題検討について・・・資料 2
 - （3）鳥取市ふるさと住民登録制度の概要について・・・資料 3
 - （4）その他

3 議題・報告事項等

（1）用瀬の流しびな総合調査について

資料 1 により、8 月 7 日に開催された「第 2 回用瀬の流しびな総合調査委員会」について説明。
調査は 3 か年計画で進める。調査にあたっては法令遵守、プライバシー配慮、ハラスメント防
止等を定めた倫理規定・要綱を作成・確認し、これらを遵守して進行する。

◎スケジュール： 初年度・2 年目は基本的な聞き取りや文化財としての調査
最終年度（3 年目）で補足調査と報告書作成
和歌山県や岡山県北木島など、他地域の流しびな・民俗事例との比較視察
も計画している。

9 月号の市報折込で調査協力依頼チラシを用瀬町全戸へ配布。昔の聞き取り調査や写真・
記録の提供を呼びかけている。問い合わせ先は市文化財課および用瀬地域振興課。

(委員)

学生時代（約 60 年前）に、読売新聞の一面に「用瀬の流しびな」がカラーで大きく載った記憶がある。新聞のバックナンバー（図書館のデータベース等）を探せば、当時の記事が見つかるのではないかな。

(事務局)

昔の新聞記事等の情報も重要な資料となります。

些細な記憶でも、そこから発展して調べていくことができるかもしれない貴重な手掛かりになるため、情報提供をお願いします。

(2) 地域の重点課題検討について

資料 2 により説明。

① ラベンダー畑の様子と課題

(田中委員報告)

先日も小学校にラベンダーを植栽した。キャンプ場横に植栽したラベンダーは株も大きくなって花も摘み取り、どう商品化していくか検討している段階。

植栽範囲の拡大も視野に入れているが、規模が大きくなると除草や収穫の人手不足が課題となってくる。今後も地域のお土産物に繋がられるよう、模索しながら取り組みを続けていきたい。

(委員)

人手が必要なら参加したい。花が広がれば景観も良くなり草刈りも楽になると思うので、今後の広がりを応援したい。

(田中委員)

今年は実験的だったが、より人目に付く場所に植えて町に広げていきたい。

(委員)

地区公民館の「花いっぱい運動」と連携し、玄関や沿道のプランターに植えてはどうか。用瀬地区は花が好きな方が多い。玄関先にプランターを置くだけでも街並みが明るくなる。

(田中委員)

ラベンダーは多年草で 1m くらいに成長する。品種にもよるが、今植えている「グロッソ」という品種は、オイルが採れるよう大きく広がっていくので、プランターだと収まりきらなくなる可能性がある。

(委員)

ラベンダーのエキスには肌の保湿や引き締め効果があると聞くので、そうした魅力を発信するのも効果的な PR になるのでは。また、屋住の長谷川邸ではクロモジの抽出を行っているが、ラベンダーでもやってみてはどうか。

(会長)

ラベンダーの取組については、今後も皆さんで協力していきましょう。

②地域資源を活かした企画について

○鳥取市シティプロモーション動画「いつでもここで」第2弾の動画の紹介
流しびなや用瀬の皆さんも多数出演している（YouTube等で公開中）

○用瀬ネイチャーツアーの提案

通過型観光ではなく、2時間程度滞在して自然を体験し、街なかで食事や買い物をしてもらう仕組みづくり

- ・春：ミツバツツジや大善寺の枝垂れ桜、庭先に咲く花々を巡る街歩き
- ・初夏：もちがせ苔散歩。三角山（女人堂）山麓のふかふかの苔の上にフィギュアを乗せて映える写真を撮る体験や、苔テラリウムワークショップのツアー
- ・夏：赤波川でのリバートレッキング
- ・秋：山間のイチョウ並木を散策する秋満喫ツアー
- ・お土産・オリジナルグッズの提案
「用瀬アルプス」ステッカー、「景石城跡」の御城印など

（委員）

春・夏・秋だけでなく「冬」の雪を利用した企画（ソリ遊びや冬ツアー）も入れるべき。複数回訪問した人へのポイント特典や全季節制覇の景品があるとリピーターが増える。

（委員）

ステッカーだけでなく「日本手ぬぐい」をデザインして販売すれば、お土産として買いたい人があると思う。

（委員）

リバートレッキングのガイドも子育て世代に手伝ってもらっているが、LINEグループなどを活用した小規模・即時的なイベントスタッフ募集（例：「〇〇イベント〇名募集」等）が有効。登山好きな方や苔好きな方などもそのグループに入ってもらい、個々の得意分野を活かした運営体制をとっていくことができる。

用瀬に来て、なかなかお金を落としてもらうところが少ないのが観光のネック。とりあえずこういったもの（ステッカーなど）を作っていく。手の届きやすい価格帯でもある。

キャンプ場の物販でもステッカーが一番売れている。

（委員）

現代的なアニメ調のご当地キャラクター（例えば流しびなをモチーフにしたキャラクター）を作ると、グッズ展開やPRがしやすく若い方にも浸透していく。

（委員）

昔、景石城のふもとには馬の洗い場（石碑あり）があり、馬が駆け下りて体を洗ったという歴史が残っている。現在その周辺で砂防工事の調査が入っており壊されないか心配。

（事務局）

砂防工事については地元から地区要望が出ており、県が意見集約や説明会を行っているため、説明会の場で地域の歴史的意図や要望を県に伝えて欲しい。支所からも状況を確認します。

(委員)

今春、リバートリップに知人を連れてワラビ採りに行ったが採りきれないほどあった。それを使った山菜うどんやパスタなどの料理を作っても楽しいのでは。

冬の雪山で肥料袋を使ったソリ遊びなども面白い。苔も他にも綺麗なところはかなりありそう。洗足の鬼伝説など土着のキャラクターも活用できるし、皆でいろんなアイデアを出し合っていく。

また、昔は「金屋の金時（サツマイモ）」が有名だったが、例えば「美成の〇〇」とか「赤波の●●」とか地域のかつての特産品を掘り起こして再生してはどうか。

(委員)

美味しいもので言えば「板井原の味噌大根」なども良かった。

また、用瀬に住んでいても用瀬のことについて答えられないことがある。例えば「洗足山は何メートルか」と聞かれても、すぐには答えられない。

用瀬の歴史や流しびなの由来などを一冊にまとめた手軽な参考書「用瀬学」の小冊子のようなものがあれば、町民が家庭で子供と勉強でき、外部からの観光客に尋ねられた際にもすぐ説明できて良いのではないか。

③空き家の利活用について

各地区公民館で月1回「空き家・住まいの相談会」を実施中（7～8月で計4件の相談）。

親戚が所有する空き家の管理・活用や、自宅の「終活」に関する相談などが寄せられている。今後も情報収集と啓発を継続する。

(委員)

用瀬には鮎釣り客の週末滞在者が多いが、宿泊施設が不足している。金曜から日曜まで滞する人もいる。民泊や空き家活用、紹介システムがあれば、せっかくの用瀬にお金を落とす機会を逃さずに済む。

(委員)

ニーズが明確だと、空き家の活用に向かっていきやすい。

赤波「いなばの杜」など新しく民泊を始める動きもある。宿泊施設の確保に向けて空き家活用を推進したい。

(委員)

長谷川邸は、インバウンドで香港や台湾からの需要もある。

④ 情報発信・PR 事業

・「#用瀬つくろう」チラシ（秋号）： 今秋開催の地域イベント情報を一括掲載したチラシを作成し10月号市報の折込で発行予定。

・「てくてく用瀬」マップ： 初刷2,000部は配布済で、500部を増刷。設置場所の開拓を継続。

(3) 鳥取市ふるさと住民登録制度の概要について

資料3により説明。

制度概要： 国（総務省）が推進する新制度。移住・定住の前段階として「関係人口」を増やすため、好きな地域に「ふるさと住民」として登録できる仕組み（住所を移すものではない）。

(委員)

関係人口や登録者を増やすためにはアクセス面の改善が不可欠。鳥取空港（コナン空港）「福岡便（九州路線）」をぜひ復活・誘致してほしい。九州や東南アジアからのアクセスが良くなれば観光やビジネスの可能性が格段に広がる。行政として強く働きかけてほしい。

(4) その他

- ・ 広報「用瀬地域振興未来だより」の校正 10月号の市報に折込予定。
- ・ JR 因幡社駅舎の更新（改築）に関する意見募集本日〆切

【次回会議】

10月末頃で予定